

自走用 NA-U1・NA-U2W
介助用 NAH-U1・NAH-U2W

取扱説明書

目次はP22に掲載しております。

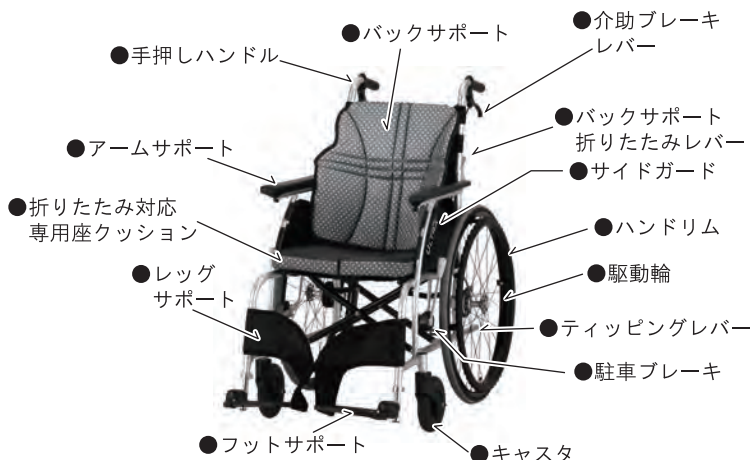
この度は、製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。

なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

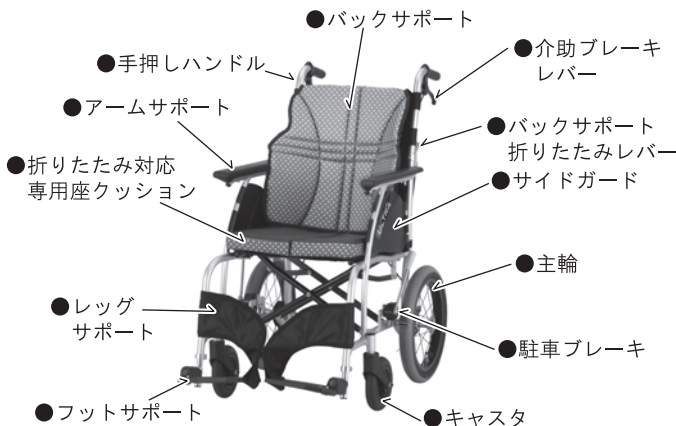
各部の名称

自走用 NA-U1・NA-U2W



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P9をご覧ください。

介助用 NAH-U1・NAH-U2W



仕様・サイズ

機種名 ※【】はシート幅	全長	全高	全幅	バックサポート高	前座高	後座高	アームサポート高	キヤスタ	駆動輪（主輪）	（専用座クッション含まず※） 重量	耐荷重（積載物を含む）
	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	インチ	インチ	kg	kg
NA-U1 【38cm】	97 (97)	90 (66)	54	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	11.9	100
NA-U1 【40cm】	97 (97)	90 (66)	56	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	11.9	100
NA-U1 【42cm】	97 (97)	90 (66)	58	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	11.9	100
NAH-U1 【38cm】	97 (86)	89 (65)	52	45	42	38.5	24	6	14	10.5	100
NAH-U1 【40cm】	97 (86)	89 (65)	54	45	42	38.5	24	6	14	10.5	100
NAH-U1 【42cm】	97 (86)	89 (65)	56	45	42	38.5	24	6	14	10.5	100
NA-U2W 【38cm】	97 (97)	92 (65)	54	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	13.3	100
NA-U2W 【40cm】	97 (97)	92 (65)	56	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	13.3	100
NA-U2W 【42cm】	97 (97)	92 (65)	58	45	42	38.5	24	6	22 <25-50>	13.3	100
NAH-U2W 【38cm】	97 (88)	92 (65)	52	45	42	38.5	24	6	14	11.8	100
NAH-U2W 【40cm】	97 (88)	92 (65)	54	45	42	38.5	24	6	14	11.8	100
NAH-U2W 【42cm】	97 (88)	92 (65)	56	45	42	38.5	24	6	14	11.8	100

（ ）は折りたたみ時の寸法です。

NA-U2W・NAH-U2Wのシート幅はアームサポートパイプ内々の寸法です。

専用座クッションの重量は約0.5kgです。

駆動輪・主輪取付けナット

インチネジ（UNF 1/2-20山）を使用

使用時適正タイヤ空気圧

NA-U1 100PSI（690kPa / 6.9BAR）

NAH-U1 65PSI（450kPa / 4.5BAR）

NA-U2W 100PSI（690kPa / 6.9BAR）

NAH-U2W 65PSI（450kPa / 4.5BAR）

ご確認ください

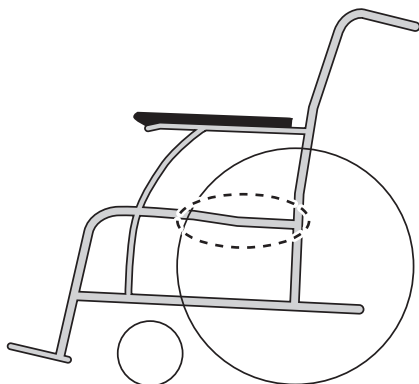
NA-U1・NA-U2W

NA-U1・NA-U2Wは乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適しているも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

NAH-U1・NAH-U2W

NAH-U1・NAH-U2Wは介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準型の介助用車いすです。なお、購入時はこの標準型が適しているも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

機種名の表示について

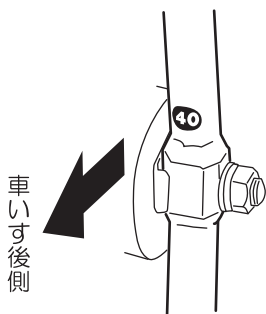


製品の機種名は車いすメインフレームの左側（乗車者様の左手側）に貼ってある、機種名を記載したシールで確認ができます。

シール例（機種：NA-U1）

NA-U1

シート幅の表示について



製品のシート幅は、左側（乗車者様の左手側）の駆動輪・主輪軸部に貼ってある、シート幅（単位：cm）を記載したシールで確認ができます。

シール例（シート幅40cm）

40

車いすのひろげかた

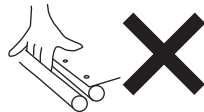
- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右にひろげてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

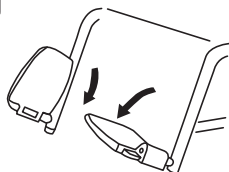



注意
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3



フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。使用者が車いすに座ってから行うのが一般的です。

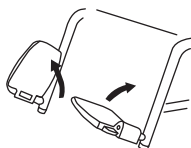
車いすの折りたたみかた

専用座クッションを装着したままでも折りたたみができます。



車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

1



フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

2



座面シートを、前後中央部を持ち上げます。

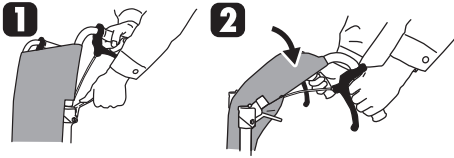
3



手押しハンドルを持って、左右から押し縮めるように折りたたんでください。

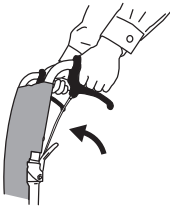
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

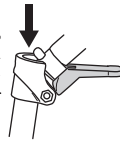


警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



**注意
警告**



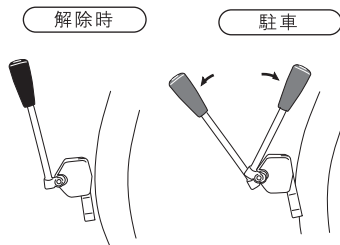
- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

● 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駐車ブレーキのかけかた

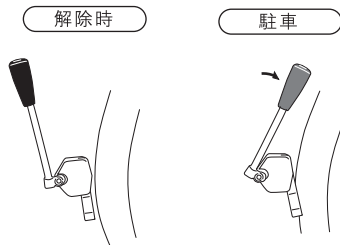
NA-U1・NAH-U1

- レバー先端のノブを手で前方に押す、もしくは後方に引くと駐車ブレーキがかかります。中間の位置が解除です。



NA-U2W・NAH-U2W

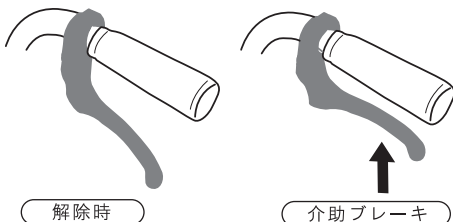
- レバー先端のノブを手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを前に戻した状態が解除です。



注意 警告

- ・駐車ブレーキは左右両輪ともしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指があたらないように注意しながら、しずかに行ってください。

介助ブレーキのかけかた



左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

駆動輪の操作のしかた（NA-U1・NA-U2Wのみ）



- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押ししたり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。



注意

タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

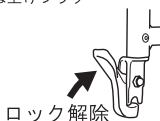
アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

※NA-U2W・NAH-U2Wのみ

跳ね上げのしかた



アームサポート
跳ね上げプラグ



アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定（ロック）を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻させるように上げてください。



戻しかた



戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押し下げてください。



**注意
警告**

- ・アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- ・跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前面に出ない位置まで跳ね上げてください。
- ・戻すときには、アームサポートとフレームや座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。



警告



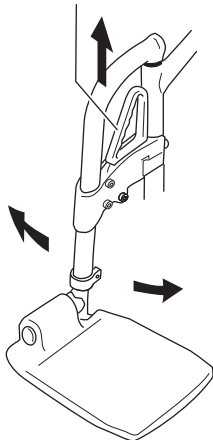
アームサポートが跳ね上げられている時は、左写真の矢印部分に手や指を置かないでください。アームサポートを戻すときや、衝撃等でアームサポートが戻ってしまったときなどに、フレームで手指を挟んでケガをするおそれがあります。



フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

※NA-U2W・NAH-U2Wのみ

スイングイン・アウト用レバー

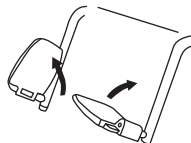


開閉のしかた・はずしかた

※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉（スイングイン&スイングアウト）ができます。

※フットサポートプレートが
あたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



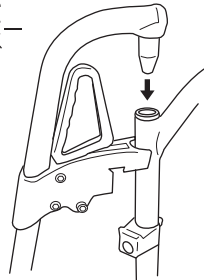
- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。



フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

取付けかた

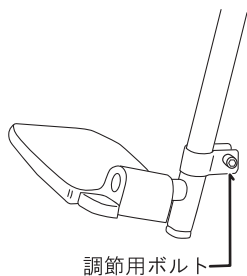
- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。

- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。（フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。）

フットサポートの調節のしかた



調節用ボルト

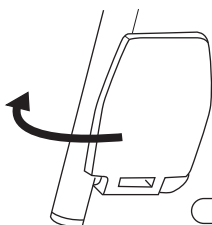
フットサポート高調節用ボルト
締め付けトルク 6～7Nm

- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを4mmの六角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



注意

- ・調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締め付けクランプが破損する場合がありますのでご注意ください。)
- ・フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm以上あげてください。
- ・調節用ボルトが完全に緩んでいない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調節がしにくくなる場合があります。
- ・フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。

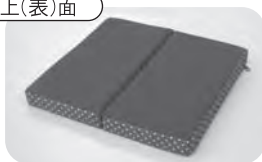


出荷時

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。上記説明の通りに調節用ボルトを緩めて、フットサポートプレートを前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

折りたたみ対応専用座クッションの使いかた

上(表)面



クッション下(裏)面の面ファスナーと座シートの面ファスナーをはり合わせてしっかりと固定します。



警告

クッションがしっかりと座シートに固定されていない状態や、クッションのファスナーがしっかりと締められていない状態でクッションを使用しないでください。

車いす前側
(水玉柄)



車いす後(奥)側
(黒無地)



座シートの前端の位置に座クッションの前端の位置を合わせてください。



折りたたみ対応専用座クッションは、車いすに固定したままでも、車いすを折りたたむことができます。



注意

車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。

座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。



サイドガードについて (必ずご確認ください)



● サイドガード



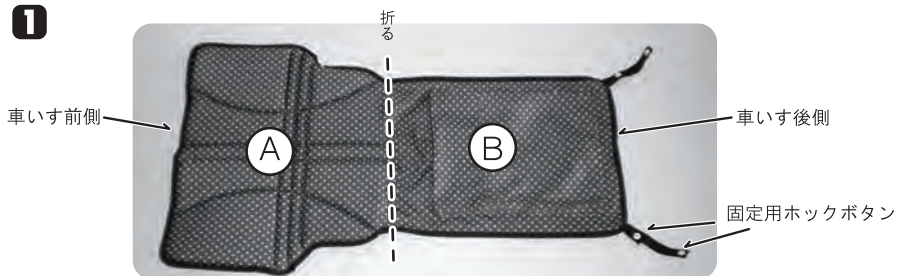
警告

サイドガードはメンテナンスのためにはずせる構造になっていますが、販売店様以外の方はサイドガードをはずさないでください。サイドガードがはずれた状態での使用は事故や製品の破損につながるおそれがあります。

サイドガードが車いすにしっかりと装着されていない場合や、サイドガードに亀裂や破損がある場合は使用を中止し、販売店までご相談ください。

バックサポートシートの取付かた

1



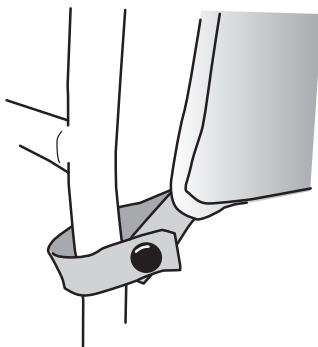
バックサポートシートを上写真のA面がインナーベルトの前側、B面がインナーベルトの後ろ側になるように、かぶせます。

折った部分がインナーシートのトップにあたるようにかぶせてください。



2

左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意

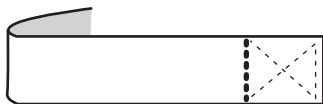
- ・バックサポートシートの取付けは駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・車輪のスポークや各部で手指等を挟まないように注意してください。

取付け時



バックサポートインナーシートの設定のしかた

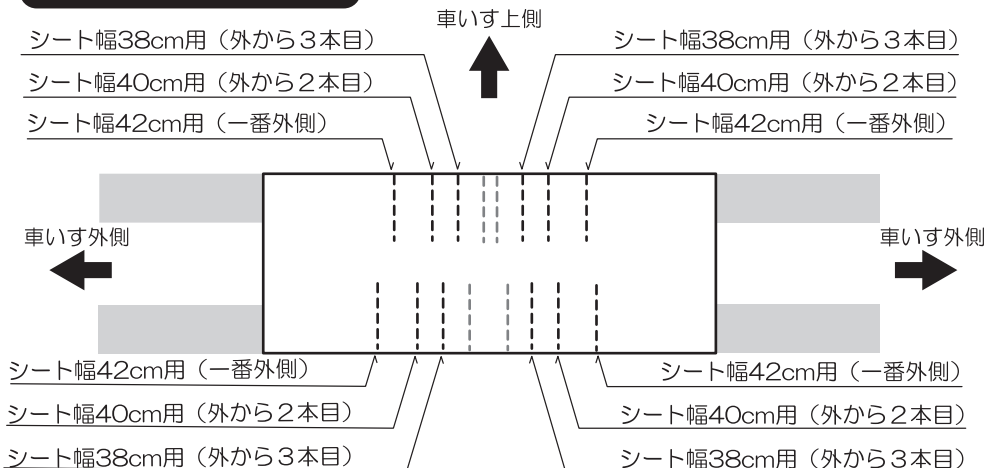
バックサポート上部の調整



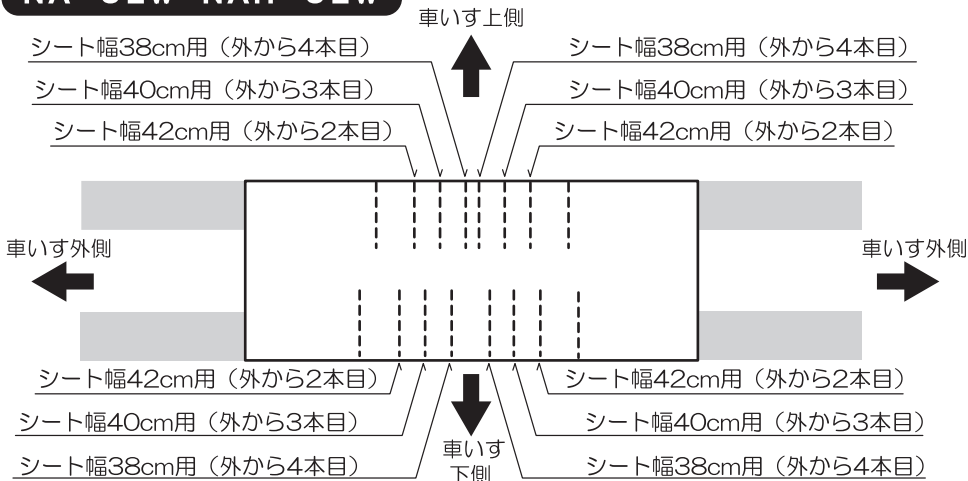
このラインをインナーシート上のラインに合わせます。

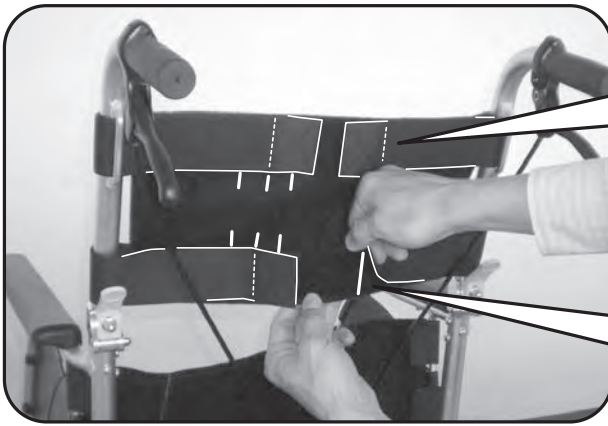
面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン（左図）を、インナーシートの赤い縫い糸のラインに合わせます。車いすの機種とシート幅により、インナーシートのどのラインと合わせるのかがかわります。

NA-U1・NAH-U1



NA-U2W・NAH-U2W



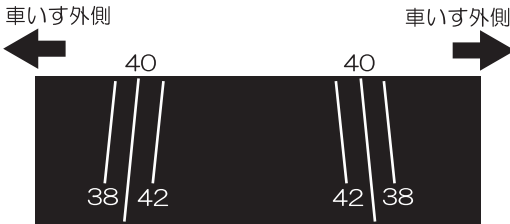


ベルト4本とも、
車いすのシート幅に
あわせて正しく設定
してください。

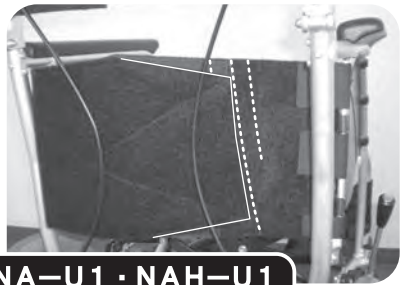
面ファスナーで
確実に固定して
ください。

バックサポート下部について

バックサポートの下部は赤い縫い糸のラインにあわせて、シートを重ねて使用します。車いすのシート幅によりどのラインの合わせるのかわかります。（右写真はシート幅40cmの場合）



車いすのシート幅 (cm) の数字のラインに
貼り合わせるシートの端を合わせます。



NA-U1 · NAH-U1



NA-U2W · NAH-U2W

全てのインナーベルト、インナーシートが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、めくり上げていたバックサポートシートを元にもどします。



**注意
警告**

- ・バックサポート上部を使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整してください。一度に2本以上のベルトの面ファスナーをはずすと、乗車者が落下しケガをするおそれがあります。
- ・ベルトの面ファスナーは確実にバックサポート面に貼りつけてください。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトが破れていたり、面ファスナーがしっかりと効かなくなっている場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



バックサポートインナーシートの装着について

- バックサポートインナーシートは必ず、下記の通りに正しく装着して使用してください。

上部インナーシート

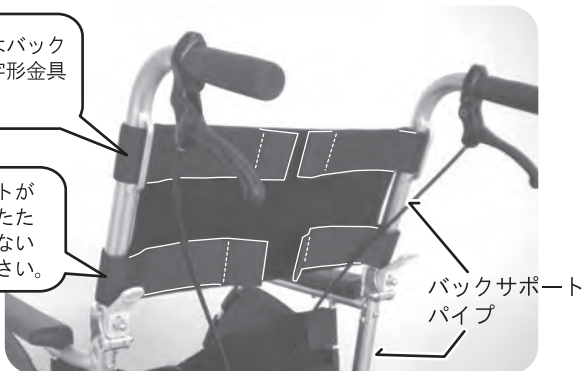
1番上のベルトはバックサポートのコの字形金具の間を通します。



警告

上から2番目のベルトがバックサポート折りたたみレバーを巻き込まないように注意してください。

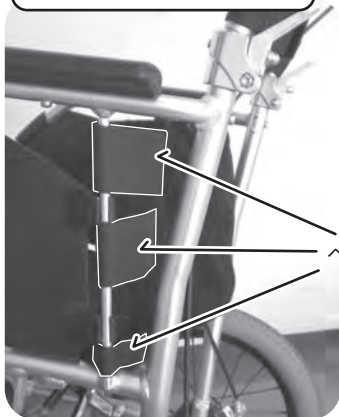
全てのベルトを、必ず、バックサポートパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。



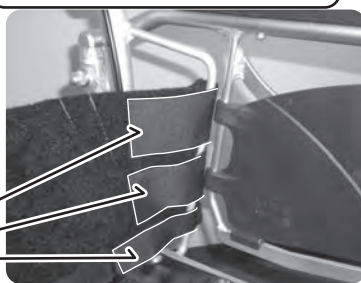
下部インナーシート

全てのベルトを、必ず、インナーシート取り付け用の細いパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。

NA-U1・NAH-U1



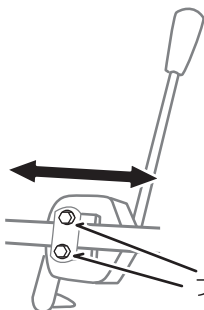
NA-U2W・NAH-U2W



警告

バックサポートインナーシートが正しく装着されていない状態で乗車した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

駐車ブレーキの調節方法



- ① 駐車ブレーキのブレーキ取付けボルトを緩めます。
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ取付けボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



**注意
警告**

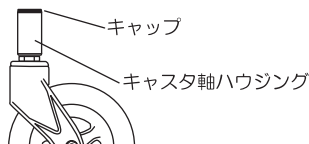
使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ取付けボルトとブレーキ取付けプレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

使用前点検（必ず行ってください）

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
 - 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
 - ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
 - シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
 - 駆動輪・主輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。（不足している場合は補充してください）
 - 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
 - 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
 - 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
 - バックサポートのインナーシートとアウターシートが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
 - 左右のサイドガードがしっかりと取付けられているかご確認ください。
 - 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。
- キャスタ軸ハウジング上端のキャップが、キャスタ軸ハウジングにしっかりととはまっていることを確認してください。キャップが浮いている場合はキャスタフォーク固定ボルトが緩んでいる可能性がありますので、使用を中止し、販売店に点検を依頼してください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 水にぬれた場合、そのままにしておく製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつく張りすぎていても、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。（例：足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようにご注意ください）。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスタ輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだしで車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

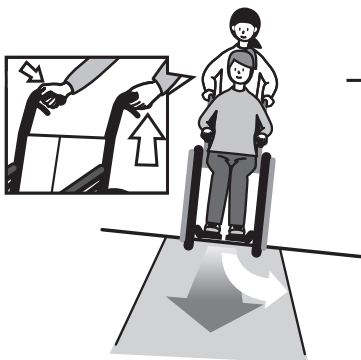
その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れしないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。）
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損する場合があります。
- 製品の改良・改善や製品の製造時期の都合により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

車いすの使用のポイント

押し方

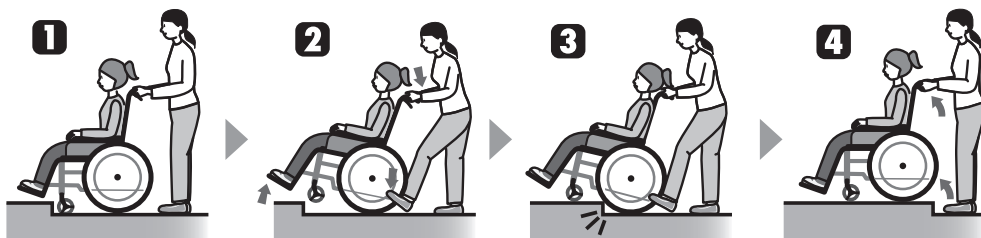
介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



■外での注意（傾いた道での押し方）

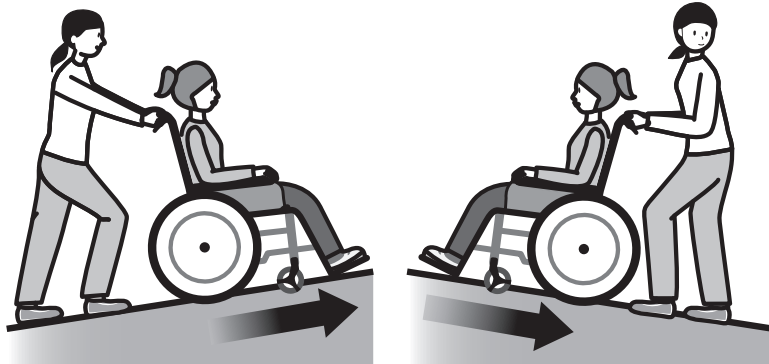
傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

段差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂道



上がる時は前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

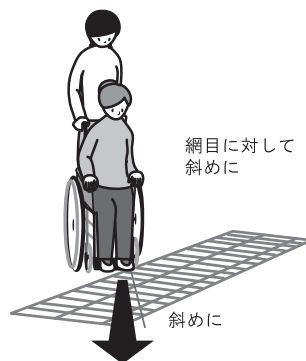
溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。



グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。

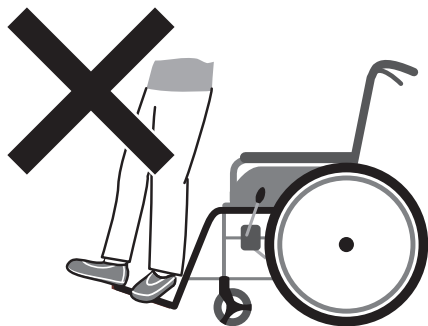


車いすを安全にご使用いただくための注意事項



禁止

フットサポートの上に立たないでください。

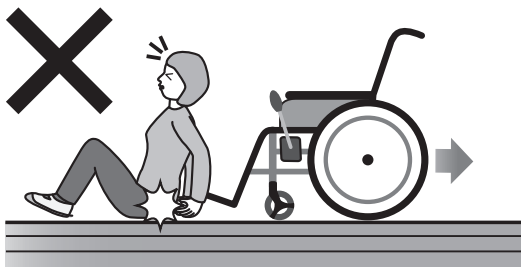


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



注意
警告

車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



車いすのトラブルシューティング

故障かな？と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。(左右の違い) 駐車ブレーキが解除されていない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。 ブレーキシューが汚れている。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。 ブレーキシューの油分を拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) ブレーキシューとタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪の空気圧が足りない。	主輪・駆動輪の空気を補充してください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 ブレーキシューの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
主輪・駆動輪(タイヤ)に空気が入らない。	タイヤ用空気入れの種類が合っていない。	正規のタイヤ空気入れを使用してください。 お買い上げの販売店へご相談ください。
	タイヤチューブのパンク。 タイヤバルブ(虫ゴム)のやぶれ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	駆動輪・主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	シート・バックサポートのインナーベルトを張りすぎている。	張り調整をしながら、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの狭みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

目次

P 1	・・・	各部の名称
P 2	・・・	仕様・サイズ
P 3	・・・	ご確認ください 機種名の表示について シート幅の表示について
P 4	・・・	車いすのひろげかた 車いすの折りたたみかた
P 5	・・・	バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた
P 6	・・・	駐車ブレーキのかけかた 介助ブレーキのかけかた
P 7	・・・	駆動輪の操作のしかた アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた
P 8	・・・	フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた
P 9	・・・	フットサポートの調節のしかた
P 10	・・・	折りたたみ対応専用座クッションの使いかた サイドガードについて（必ずご確認ください）
P 11	・・・	バックサポートシートの取付けかた
P 12	・・・	バックサポートインナーシートの設定のしかた
P 14	・・・	バックサポートインナーシートの装着について
P 15	・・・	駐車ブレーキの調節方法 使用前点検（必ず行ってください）
P 16	・・・	メンテナンス・保管方法
P 17	・・・	注意・警告
P 18	・・・	車いすの使用のポイント
P 20	・・・	車いすを安全にご使用いただくための注意事項
P 21	・・・	車いすのトラブルシューティング
P 22	・・・	目次 ウレタン素材には寿命があります
P 23	・・・	保証規定・品質保証書



ウレタン素材には **寿命** があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスト輪



アームサポート
パッド
など

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理致します。

機種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名	TEL	
お買上げ日	年 月 日	保証期間	まで
販売店	見本 (印)		
総販売元			
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35番地の2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所 〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14
TEL<03>3814-0923(代) FAX<03>3814-4644
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRZ-029-15